

研究成果情報	園芸	40	果樹	栽培
新技術・情報名	いちじくの一文字整枝における低温にともなう発芽障害防止法		分類	①

## 1. 成果の内容

### 1) 技術・情報の内容及び特徴

「柵井ドーフィン」の一文字整枝樹の、晩霜による発芽障害の防止には、発芽前（3月下旬）に主枝をわら巻きし、フィルムで被覆する等の防寒方法がよい。

- (1) 3月中旬の休眠枝は、 $-10^{\circ}\text{C}$ の低温でも発芽率は低下しない。
- (2) 4月上旬の発芽期の枝は、 $-5^{\circ}\text{C}$ 以下で発芽障害を受け、低温遭遇後急速に暖まるような条件下では、発芽障害が助長される。
- (3) 防寒方法では主枝をワラ巻き後フィルムで被覆したもの、またはベルマーチ被覆したものの防寒効果が高い。
- (4)  $-5^{\circ}\text{C}$ 程度の低温では、フィルムだけの被覆でも防寒効果がある。

### 2) 技術・情報の適用効果

晩霜による発芽障害を防止することで、「柵井ドーフィン」の一文字整枝樹の生産が安定する。

### 3) 適用範囲

県内の「柵井ドーフィン」一文字整枝樹の産地。

### 4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 降霜の恐れがなくなれば防寒資材は早めに除去する。

2. 具体的データ

表1 一年枝の低温遭遇後の発芽率（平成元年～2年）

切り枝の 採取時期	低温	遭遇時間	発芽率
	℃	Hr	%
3月中旬	-3	3	100
	-5	3	98
	-7	3	100
	-10	3	94
	無処理*	-	100
4月上旬	-3	1	100
	"	3	100
	"	5	97
	-5	1	63
	"	3	40
	"	5	47
	-7	1	30
	"	3	37
	"	5	7
	無処理**		100

注)①\* : 露地の最低温度2.9℃、最高温度13.1℃  
 ②\*\* : 露地の最低温度6.5℃、最高温度16.8℃

表2 防寒資材と解凍温度が発芽率に及ぼす影響（平成3年）

枝の防寒 処理方法	発芽率					
	-5℃→10℃	-5℃→20℃	-5℃→30℃	-7℃→10℃	-7℃→20℃	-7℃→30℃
	%	%	%	%	%	%
ワラ+フィルム*	100	100	100	100	100	100
ペルマーチ**	100	97	100	97	97	98
フィルム***	97	94	88	47	40	38
ホワイトンパウダー****	48	41	25	21	12	9
無処理	47	35	28	10	11	7

注)①\* : ワラを厚さ10cm巻いた上に多孔質フィルムを被覆 ②\*\* : ポリエステル綿の防寒資材  
 ③\*\*\* : 多孔質フィルム ④\*\*\*\* : 炭酸カルシウムの3倍量

3. その他の特記事項

担当部科室名 : 豊前分場 果樹研究室  
 研究担当者名 : 栗村光男・正田耕二  
 研究課題名 : いちじく一文字整枝の温度障害防止法  
 期間 : 平成元年～平成3年  
 予算区分 : 経常  
 既発表論文・資料名等 : 平成元～3年度 豊前分場 果樹試験成績書  
 取りまとめ責任者名 : 正田耕二